

オミクロン株の感染拡大について

渡辺登喜子

大阪大学微生物病研究所感染機構研究部門分子ウイルス分野教授

はじめに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生から2年半以上経ちました。これまでにないスピードでCOVID-19 ワクチンが開発され、世界各国においてワクチン接種が進められていますが、次々と出現する変異株のため、いまだに流行収束の兆しは見えません。2022年7月5日現在の世界保健機関(WHO)の発表によると、全世界での累計感染者数は5億4,790万人を超え、累計死者数は633万人以上にのぼっています。日本では2021年8月頃にデルタ株による第5波が起きましたが、翌月には感染者数は激減しました。しかしながら、2021年11月末に出現したB.1.1.529系統の変異株(オミクロン株)が全世界にあっという間に拡がり、日本では2022年1~2月に感染者数は激増しました(図1)。ピークを過ぎた後も感染者の数は依然として多く、また6月後半から感染者数が急速に増え、7月に第7波が来ることが予想されています。厚生労働省によると、2022年7月5

日時点での国内での累計感染者数は943万1,868人、死者数は31,340人と報告されています。

今回のよもやま話では、オミクロン株の性状や亜系統について概説します。

オミクロン株の性状について

国内外の報告から、オミクロン株の感染・伝播性は高く、デルタ株と比べて、世代時間、倍加時間、潜伏期間が短くなっており、感染拡大の速度が非常に早いことが示唆されています。オミクロン株の感染は、これまでと同様に、換気が不十分な屋内や飲食の場などを中心に起きており、感染経路についても、飛沫が粘膜に付着することやエアロゾルの吸入、接触感染等を介していると考えられています。また子どもが感染しやすくなっており、学校等での感染に加えて、家庭に持ち帰り、家庭内で感染が拡大する事例も多く見られています。

オミクロン株の感染者における臨床症状としては、従